



# 日本ブラインドマラソン協会 JBMA 会報

発行所

特定非営利活動法人 日本ブラインドマラソン協会

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目9番8号 本郷朝風ビル5F

ホームページ：http://www.jbma.or.jp/

TEL/FAX：03-3814-3229 E-mail：info@jbma.or.jp

発行責任者：澤木 啓祐 / 編集責任：事務局

明けましておめでとうございます。

いよいよ東京2020パラリンピック開催！本年もよろしくお願いたします。



神宮大会での会長挨拶

## 会長挨拶

羽毛田 信吾

会報『絆』第141号の発行に当たり新年のご挨拶を申し上げます。

令和となった最初の新春、会員の皆さまには健やかに良き新年を迎えられ、新たな目標に向かい挑戦の日々をスタートさせていることと存じます。

いよいよ、東京2020パラリンピックが開催される本年は、協会にとっても新たな一ページを記す節目の年となります。

日本の東京を舞台に繰り広げられる記念すべき祭典において、日本代表となる精鋭ランナーの皆さまには2016リオデジャネイロ大会（男子銅、女子銀メダル獲得）を上回る成績を目標に飛躍を遂げ、日本国中を大いに盛り上げていただき、更なる障がい者スポーツ発展の礎にさせていただくことを願います。

協会創設の目的に鑑みながら40年に及ぶブラインドマラソンの普及・発展の取り組みを振り返りますと、2020年をパラリンピック開催によって社会のパラスポーツへ一層の理解を得る絶好の年と捉え、協会の事業においても、とりわけ大きな成長を遂げる躍進の年にしてゆかなければなりません。

昨年も協会の事業活動に対しまして、ご協賛企業・団体の皆さまをはじめ多方面から幅広いご支援、ご協力を頂戴できたことも大変幸せなことでした。

昨年は、東京2020パラリンピックに向け、着実に力をつけてきた選手強化の事業はもちろん、大会開催事業では11月の「第22回全国視覚障がい者駅伝」大会、12月には昨年引き続き明治神宮野球場を舞台に開催した「神宮外苑チャレンジフェスティバル第37回JBMAユニファイドラン」を、盛会のうちに終えることができました。

また、研修・普及事業では、協会主催の事業を着実に実施し、全国から要請のあったブラインドマラソンの指導や伴走者養成の協力依頼に対しても積極的に支援し、ブラインドマラソンの意義と伴走ボランティアの重要性について理解を深め、主催者からは多くの感謝の声が寄せられました。

このように、多くの視覚障がい者とそのスポーツ活動を支える伴走ボランティアをはじめとする支援者に加え、一般社会の皆さまからも、「障がい者スポーツを通してノーマライゼーション社会の実現」を目指すという、協会目的に力強い賛同をいただく場面を随所に見ることができました。

協会はこれらのご支援への感謝を忘れず、2020年を節目に心機一転、更なる目的実現に向かって責任と自覚を持って行動しなくてはなりません。

本年も、パラリンピックへの全力投球をはじめ、諸事業の実践に腐心してまいります。この記憶に残すべき一年に、会員の皆さまはもちろん多くの支援者の皆さまにも、協会活動への変わりぬご指導ご鞭撻をお願いし、皆さまにとっても幸多き輝かしい一年となりますようお祈り申し上げます。ご挨拶いたします。

行事報告

神宮外苑チャレンジフェスティバル 第37回JBMAユニファイドラン

昨年12月8日、37回目を迎える協会の一大イベント「神宮外苑チャレンジフェスティバル第37回JBMAユニファイドラン」が、明治神宮野球場をスタート・ゴールに開催されました。

今回も、特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟並びに報知新聞社の共催をいただき、関東学生陸上競技連盟を中心とした、多くの学生ボランティアの方に支えていただく大会運営となりました。

また、スポーツ振興くじ助成事業としても支援をいただきました。

視覚障がい者85名、知的障がい者47名のランナーに伴走者、一般ランナーを加え、総勢1335名が10kmラン、5kmラン、5kmウォークの3種目に分かれて挑戦しました。

コースは自然豊かな神宮外苑の名所、いちよう並木や絵画館、新設成った国立競技場などの恵まれた景観の中、お互いに励まし合い、譲り合いながら、ノーマライゼーションの精神にふさわしい大会となりました。

また、ゲストランナーには、パラリンピアンズのブラインドマラソンレジェンド柳川春己さん、2019年パラ世界陸上視覚障がいマラソンの部銅メダリストの堀越信司選手、オリンピックでは、今年も鈴木雄介選手（2019ドーハ世界選手権50km競歩初金メダリスト・東京2020内定・富士通所属）、2004アテネオリンピック女子マラソン7位入賞の坂本直子さん、2005世界陸上代表の原裕美子さんに駆けつけていただき、大会に華を添えていただきました。



ゲスト坂本直子さんの励ましに“笑顔”

視覚障がい者の部 成績上位者一覧

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

Table with 3 columns: Distance, Gender, Age Group, and Race Results (Rank, Time, Name, Prefecture).

(順位/記録/選手/都道府県)

ランナーの皆さんは、鈴木選手の世界一の歩きに目を見張り、坂本さん、原さんのエールに励まされてレースを完走、表彰でのプレゼンターとして共に記念写真にに応じてもらうなど、記憶に残る大会になりました。

OSAKA EKIDEN in長居 兼第22回全国視覚障がい者駅伝大会

11月4日、大阪ヤンマースタジアム長居及び長居公園周回コースにおいて、「OSAKA EKIDEN in長居 兼第22回全国視覚障がい者駅伝」が大阪陸上競技協会主管の下で、全国50チームが参加して開催されました。

視覚障がい部33チーム（盲学校5チームを含む）は過去最高の参加チーム数になりました。

ゲストランナーには、お馴染み増田明美さん、ソウル・バルセロナの両オリンピックで4位に入賞した中山竹通さん、アトラントパリンピックで日本人初のマラソン金メダルを獲得した柳川春己さん、北京オリンピックピック代表の竹澤健介さんが登場、開会式での増田明美さんのユニークな激励に大いに会場が沸き、東京から参加のAchillesチーム



ゲスト増田明美さんの激励



駅伝のスタート風景

田畑美智子さんの選手宣誓でレースが始まりました。レースは、晴天に恵まれた最高のコンディションの中、ゲストランナーとも楽しく競い、励まし合い、和気あいあいの雰囲気の中、全チームが完走、レース後の伴走体験会に至るまで大いに盛り上がる大会となりました。

視覚障がい部ではコーベパール（1時間18分25秒）、一般の部では阿部総業（1時間3分59秒）、混成の部ではチーム山本ちばりよ（1時間11分18秒）がそれぞれ優勝。盲学校チームでは九州から初参加の北九州視覚特別支援学校が青木喜人校長先生の伴走もあり、視覚障がい部で総合6位にあたる1時間29分17秒で優勝しました。

また、この大会はスポーツ振興くじの助成をいただきました。

## 第50回防府読売マラソン 兼 第20回日本視覚障がい女子マラソン選手権大会

12月15日、山口県の防府市にて、第50回防府読売マラソン兼第20回日本視覚障がい女子マラソン選手権大会が、50回と20回の節目の大会として盛大に開催されました。今大会よりコース変更が行われ、スタート位置は陸上競技場から防府市総合体育館前の公道へと変更され、スタート後は約3kmの直線が続くこともあり、スタート混雑の緩和と記録の向上が期待されました。12時の天候が気温14度、湿度46%、南東の風1.6mと穏やかなコンディションの中、IPC登録の部に男子5名、女子6名がスタートを切りました。

2017年大会で女子T12クラスの世界記録をマークしている道下美里選手は、今大会での記録更新を目指して、積極的にレースを進めました。30kmまでは世界記録を狙える展開でありましたが、残念ながら終盤ペースダウンし記録更新はできませんでした。しかし記録は3時間を切り、2019年の世界ランキング1位となる2時間58分50秒をマークしました。

今大会は好記録が相次ぎ、女子T11クラスの金野由美子選手が念願の日本新記録を達成、女子T12クラスの青木洋子選手が2019年世界ランキング3位となる記録をマークするなど、女子選手の奮闘が目を見せました。

### 上位選手の結果

男子		
1位	山下 慎治 (シーズアスリート)	T12 2:39:13 <b>自己新</b>
2位	勝丸 真至 (ウインドラン)	T13 2:44:20 <b>自己新</b>
3位	スピード イーアン (オーストラリア)	T12 2:56:03
女子		
1位	道下 美里 (三井住友海上)	T12 2:58:50
2位	青木 洋子 (NTTクラリティ)	T12 3:09:55 <b>自己新</b>
3位	藤井 由美子 (びわこタイマーズ)	T12 3:17:07
4位	金野 由美子 (JBMA)	T11 3:17:20 <b>日本新</b> <b>自己新</b>



防府読売マラソン表彰式

#### 道下美里 選手 コメント

今大会では自己記録更新と東京パラリンピックを想定したレース展開で勝つことを目標に走りました。30キロ付近までは想定どおりのペースでしたが後半はペースを崩し58分台でのゴールとなりました。目標達成とはなりませんでしたが、序盤ハイペースで果敢に挑戦したこと、ペースが落ちながらもラストは踏ん張り3時間以内でゴールができたことは自信になりました。ゴール後練習を支えてくれている伴走者が涙を流していたと聞きました。その涙を必ずうれし涙に変えたい！これからも不屈の精神でチーム一丸となって戦います。引き続き応援よろしくお願いします！

#### 金野由美子 選手 コメント

今回の目標はT11の日本記録を更新して、3時間17分台で走ることでした。故障や怪我が多くなかなか思うように練習を重ねられませんが、今シーズンは、夏から合宿にも積極的に参加して練習を積むことができました。それが大きな自信になりました。これからも更にベスト更新を目指して、こつこつと練習を積み上げていきたいです。

## ドバイ2019 世界パラ陸上競技選手権大会

東京2020パラリンピック参加枠の獲得大会となる世界選手権が、11月7日から15日までの日程でUAEのドバイにて開催され、日本からブラインドの長距離種目にT11クラスの和田伸也選手と唐澤剣也選手の二人が参加枠獲得となる4位以内を目指して参加しました。(この大会はNHK総合で毎晩生中継され、ご覧になられた方も多いのではないのでしょうか。) レースは7日に1500mの予選があり、二人とも無事に8日の決勝に進出しました。決勝進出のハードルはとて高く、予選が2組行われ、それぞれの組の上位2名と記録が良い2名の計6名が決勝進出となり、この時点で世界のベスト6となります。

最大のライバルはブラジルのサントス選手。2016年リオパラリンピックではT13クラスで出場していましたが、病気の進行によりT11にクラスが変わりました。レースはサントス選手がスタートから抜け出し、海外勢が続ぎ、和田選手と唐澤選手は後方から追いかける展開となりました。ラスト1周となる残り400mの時点では、和田選手が5位で4位の選手との差は約3秒、唐澤選手は少し離れたものの、自己記録を狙えるペースで終盤に入ります。

ここから、和田選手が驚異の追い上げをみせ、先行するエクアドルの選手を猛追、ラスト10mで並び、結果は100分の7秒差！で見事に参加枠を獲得する4位。記録は前日にマークしていた日本記録をさらに2秒更新する4分11秒72。唐澤選手も予選から記録をあげて4分17秒72で6位となりました。

1500m決勝から6日後の14日の午前中、本命の5000mが12名の参加者によって行われました。事前の2019年世界ランキングでは和田選手が1位、唐澤選手が2位となっており二人ともメダルの獲得を目指してのレースとなりました。

(3ページからの続き)

レースは暑さの影響もあり、1000mを3分10秒を超えるペースで4000mまで進み4000mの通過が12分50秒。この時点で集団は7名に絞られました。残り1周では4名にまで絞られ、和田選手が2番手、唐澤選手が4番手でラスト1周に入ります。4名の集団はラスト200mまで団子状態となりますが、ここで和田選手の伴走者とロシアの選手が接触し双方がバランスを崩しながら、ラストスパート合戦へと入ります。

リオ2016チャンピオンのケニアのキマニ選手が優勝。ロシアの選手が2位となり、和田選手が3位、唐澤選手が4位でフィニッシュしましたが、3位に入った和田選手は伴走の助力違反を取られて、失格となり、唐澤選手が3位となり、銅メダルを獲得しました。

和田選手の助力違反はラスト200mから伴走者が選手を引っ張ったと判断されたことによります。和田選手の失格は残念ではありましたが、当初の目標通り、二人とも東京パラの参加枠を獲得することができ、目標を達成することができました。今大会は東京パラへと期待が高まる大会となりました。

## 伴走者養成研修・視覚障がい者マラソン研修報告

9月14日～15日に今年も静岡県掛川市のつま恋リゾート彩の郷で開催されました。

参加者は20名とスタッフ11名の合計31名（うち視覚障がいの有る方が7名）。

講師は原田清生と鈴木邦雄の両常務理事が務め、講義の後は園内のコースを走る実技が行われました。時刻にはクーパーテスト（12分間走）も行われて各自走力の確認を行っていました。

翌日は、早朝練習から始まり、昼食後に解散となり、充実した2日間を過ごしました。

この研修は、日本財団パラリンピックサポートセンターの助成事業として開催しました。

## その他の研修会報告

- 5月25日 24時間リレーマラソン兼伴走講習会（長野）  
参加者 25名／鈴木（那）・久保
- 6月8日 伴走者育成研修会（鳥取県・米子）  
参加者 約50名／鈴木（那）
- 7月13日 伴走者育成研修会（福岡マラソン）  
参加者 約100名／鈴木（那）・原田（勝）
- 7月21日 伴走教室「一緒に走ろう！歩こう！」（会津若松市）  
参加者 35名／鈴木（那） 久保
- 9月8日 伴走教室（世田谷区）  
参加者 10名／鈴木（那）・鈴木（雅）
- 9月23日 ウォーク&ランフェスタ 東京学芸大  
参加者 約20名／鈴木（那）・他に協会メンバー多数
- 10月27日 日本臨床眼科学会 伴走体験会（京都）（日本臨床眼科学会）  
参加者 約150名／鈴木（那）・原田（勝）
- 11月10日 世田谷ハーフ講習会  
参加者 8名／鈴木（那）・鈴木（雅）
- 11月17日 ジャパンウォーク 伴走・伴歩講習（神宮）  
参加者 40名／鈴木（那）
- 11月22日 福知山マラソン伴走研修  
参加者 約4名／鈴木（那）・柳川
- 12月3日 青山学院大学講習会  
参加者 約45名／鈴木（那）

## 2020年パラリンピックイヤー 主要行事日程（予定）

本年は東京2020パラリンピック開催年、協会にとつては大変重要な年になります。皆さまのご参加・ご声援をよろしくお願い致します。

- 1月12日 新年代々木練習会始め
- 2月2日 第69回別府大分毎日マラソン
- 2月29日 第2回東京伴走研修会
- 3月7日 第9回日産ふれあいロードレース
- 4月19日 2019かすみがうらマラソン
- 4月26日 WPAマラソンワールドカップ（ロンドン）
- 5月2・3日 ジャパンパラ陸上（国立競技場）
- 5月（予定） 定例総会・理事会
- 7月（予定） 第1回東京伴走者研修会
- 8月30日（予定） 第33回北海道マラソン
- 9月6日 東京パラリンピックマラソン
- 9月13・14日（予定） 伴走者・視覚障がい者研修（宿泊）
- 11月1日（予定） 第23回全国視覚障がい者駅伝（長居）
- 11月23日 第30回福知山マラソン
- 12月7日（予定） 第38回JBMAユニファイドラン（神宮）
- 12月20日 第51回防府読売マラソン

## 編集後記

2020年、いよいよ東京パラリンピックイヤーの幕開けです。  
会報141号では、昨年取り組んだ大会開催、普及研修、選手強化の三つの重要な事業活動が順調に実践できたことを報告することができました。  
また、新しい歴史を記すであろうこの2020年の準備にも万全を期してきました。  
その中で、半年をかけ取り組んだ認定更新の申請が東京都に認めてもらえず、不調に終わったことは、唯一大きな悔いとして残りました。  
協会事務局は、これら一年の反省に立ち、心機一転、多くの挑戦を重ねる、今年の実業に邁進して行く所存です。  
終わりに、皆さまの記憶に残るであろうこの一年が、皆さまにも多くの幸をもたらし、また、皆さまの力強いご支援を受けながら、素晴らしい一年となりますよう、祈念して、本号の編集を終えます。  
皆さん！東京パラリンピックへの絶大なご声援をよろしくお願い致します！

## ご報告とお願い

協会は、昨年12月東京都より特定非営利活動法人の認定を更新しない旨の通知を受け取りました。  
この決定は、協会が東京2020パラリンピックに向けて取り組んでいる「競技力向上事業」の助成金の総額が「特定の範囲の者に便益が及ぶ活動」に判定され、認定の基準を満たさないとの結論によるものでした。  
協会としては、本年のパラリンピック開催を控え、最も重要な時期に至っている代表選手の強化事業に停滞や不安を残さないため、この決定に従うこととなりました。  
今後、協会名称は「特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会」となります。  
この結果、従来寄附金を拝受しておりました皆さまへの、税制上の優遇措置が適用できなくなることに御詫びとご理解をたまたりますようお願い申し上げます。